

だれもが安心して暮らせる地域づくり



発達障がい

[入門・地域向け]



～そっと寄り添い あたたかいまなざしで～

地域で取組む発達障がい理解啓発プロジェクト「いそごキャラバン」

NPO法人 夢・コミュニティ・ネットワーク

平成29年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

発達障がいとは？

● 「発達障がい」ってご存知ですか？

公立の小中学生の 6.5% が発達障がいの可能性（35人学級に2～3人の割合）※1

外見からは困っていることがわかりにくい

あまりよく知られていないのが現状

● 脳機能の発達に関係する生まれつきの障がい

● 主な特徴（すべてが当てはまるわけではありません）

発達障がいは、脳機能の発達に関係する生まれつきの障がいです。
親の育て方やしつけができていないわけでも、
愛情不足が原因でも、本人の努力が足りないわけでもありません。

パターン化した
こだわり行動

社会性が低く
コミュニケーションが苦手

イマジネーションが乏しい

読み書き・感情の
コントロールが苦手

感覚の過敏・鈍感

不注意・多動性・衝動性

● 外見からはわかりにくい

外見からは、障がいの有無がわかりにくく、一人ひとり 症状の現れ方も異なります。
他人との関係づくりはとても苦手ですが、他の優れた能力を発揮されている場合もあり、
周囲からはそのアンバランスな様子から誤解されることが多いです。

● 理解されず地域で孤立しがち

コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手なため、その行動や態度は
「自分勝手」とか「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることが少なくありません。
また、困っていることを伝えることが苦手なため、
周囲から理解されずに辛い思いをすることが多く、孤立しがちです。
また学びにくさから学習困難になり、不登校やひきこもり・非行などの
二次障害に結びつくケースも少なくありません。

● 身近な地域で知る(学ぶ)機会が少ない

とても身近な障がいにも関わらず、本人や家族以外の方が発達障がいについて
「知る」(学ぶ)機会が少なく、地域での理解がなかなか進まない現状があります。

※1 H24 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査より(文部科学省)

こんなことで困っています

地域で見かけるよくある行動特徴と解説

地域でよく見かける事例をまとめました。本冊子では 地域の人が、発達障がいについて「知り」、「地域の人へ分かりやすく伝えてもらう」ことを目的にしていますので、具体的な支援や専門的な相談については区役所や専門機関にお問い合わせください。

地域で見かけるよくある行動特徴

いつもと同じ状態であることに「強くこだわる」

事例 1

事例 2

『スーパーマーケット』での 事例 1

Aさんはいつも行くスーパーマーケットで、
乱れているお肉のパックを一生懸命に並べ直しています。



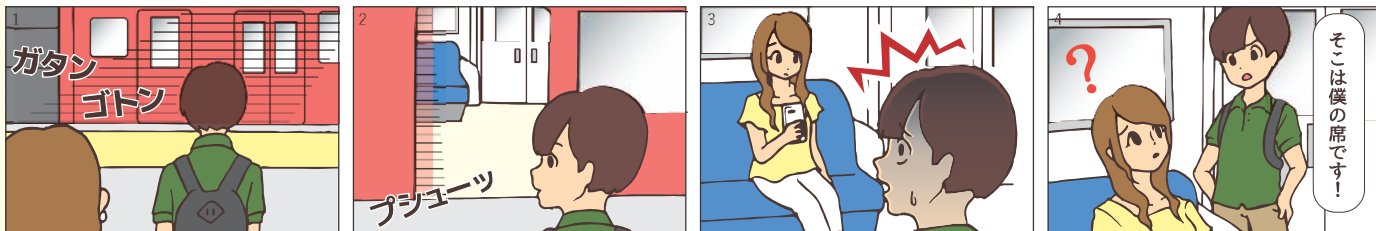
解説

Aさんは、日頃きちんと並んでいるお肉のパックが「いつものように」きれいに並んでいないことが気になって仕方がありませんでした。そのため、お肉をきちんと並べたいという衝動が強すぎて止められませんでした。

コラム:逆に〇〇に触ることが嫌で触れないタイプの人もあります。

『電車』での 事例 2

他にも席がたくさん空いているにも関わらず、
「僕の席です」と言って座っているお客さんをどかして座ってしまう。



解説

いつも決まった座席に座ることに こだわりをもち、「同じ席に座ること」で安心する場合があります。そのため、誰かがそこに座っているからといって、その状況にあわせて臨機応変に対応することができず、このような行動に出てしまいました。席をゆずることもひとつの支援の方法です。